

[果樹部門 令和3年度 指導参考資料]

事項名	モモせん孔細菌病の7月上旬以降における果実感染と防除法																				
ねらい	モモせん孔細菌病に対する春以降の薬剤防除時期は、5月上旬の「開花直前」から6月下旬の「落花40日後頃」までとしてきたが、近年、せん孔細菌病の発生が増加傾向にあることから、果実感染時期と発病程度について検討した。その結果、7月上旬以降も果実感染が続いていることを確認し、防除が必要であることを明らかにしたので参考に供する。																				
指導参考内容	<p>1 果実感染時期 7月上旬以降も果実への感染が認められる。</p> <p>2 防除方法 発生が多い園地では「7月上旬」及び「7月中旬」にも有効薬剤を散布する。</p> <p>3 有効薬剤</p> <table border="1" data-bbox="339 696 1425 866"> <thead> <tr> <th rowspan="2">散布時期</th> <th rowspan="2">薬剤名</th> <th rowspan="2">FRACコード</th> <th rowspan="2">希釈倍数</th> <th colspan="2">農薬使用基準</th> </tr> <tr> <th>使用時期</th> <th>年間使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7月上旬</td> <td>デランフロアブル</td> <td rowspan="2">M9</td> <td rowspan="2">600倍</td> <td rowspan="2">収穫7日前まで</td> <td rowspan="2">4回以内</td> </tr> <tr> <td>7月中旬</td> <td>デランフロアブル</td> </tr> </tbody> </table>					散布時期	薬剤名	FRACコード	希釈倍数	農薬使用基準		使用時期	年間使用回数	7月上旬	デランフロアブル	M9	600倍	収穫7日前まで	4回以内	7月中旬	デランフロアブル
散布時期	薬剤名	FRACコード	希釈倍数	農薬使用基準																	
				使用時期	年間使用回数																
7月上旬	デランフロアブル	M9	600倍	収穫7日前まで	4回以内																
7月中旬	デランフロアブル																				
期待される効果	せん孔細菌病に対する有効薬剤の散布を7月上旬以降も行うことで、せん孔細菌病の被害軽減が期待される。																				
利用上の注意事項	<p>1 本資料は令和3年1月8日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。 「農薬情報」 (https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農薬登録情報提供システム」 (https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用すること。</p> <p>3 「収穫後」及び「開花直前」以降の薬剤防除を徹底し、発病を抑える。</p> <p>4 薬剤防除だけではなく、枝病斑の切除や防風対策、袋かけの実施等の耕種的防除も行い菌密度の低下を図る。</p>																				
問い合わせ先(電話番号)	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域及び経営体	県内全域のもも作付経営体																		
発表文献等	平成23～24年度、令和元年度 りんご研究所試験研究成績概要集(特産果樹)																				

【根拠となった主要な試験結果】

表1 果実の露出期間と発病との関係 (平成23～24年、令和元年 青森りんご研県南果樹)

年次	露出期間	調査果数	指数別発病果数				発病果率 (%)	発病度
			0	1	2	3		
平成23年	6/ 2～6/18	20	20	0	0	0	0	0
	6/18～7/ 5	19	16	1	1	1	15.8	10.5
	7/ 5～7/22	26	10	4	1	11	61.5	50.0
	全期間被袋	24	24	0	0	0	0	0
	全期間露出	30	3	2	1	24	90.0	84.4
平成24年	6/ 1～6/15	34	29	0	0	5	14.7	14.7
	6/15～6/29	17	13	0	0	4	23.5	23.5
	6/29～7/13	26	14	2	3	7	46.2	37.2
	7/13～7/27	23	14	2	1	6	39.1	31.9
	全期間被袋	24	24	0	0	0	0	0
	全期間露出	53	15	3	6	29	71.7	64.2
令和元年	6/19～7/ 5	34	20	0	1	13	41.2	40.2
	7/ 5～7/20	35	14	5	5	11	60.0	45.7
	7/20～8/ 5	33	14	6	0	13	57.6	45.5
	全期間被袋	33	30	0	0	3	9.1	9.1
	全期間露出	38	14	7	3	14	63.2	48.2

- (注) 1 供試樹：「川中島白桃」
 2 試験方法：平成23年は6月2日（落花11日後）、平成24年は6月1日（落花8日後）、令和元年は6月5日（落花26日後）に試験を開始し、供試果実を時期別に被袋あるいは除袋して、一定期間果実を露出させた。
 3 調査方法：平成23年は9月1日、平成24年は8月16日、令和元年は8月29日に発病程度を指数別に調査した。
 〈発病指数〉0：病斑なし、1：病斑が1個、2：病斑が2～4個
 3：病斑が5個以上あるいは1つの病斑が5mm以上

$$\text{発病度} = \left\{ \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病程度別果数})}{(3 \times \text{調査果数})} \right\} \times 100$$

 4 薬剤散布：試験期間中はせん孔細菌病防除剤を使用しなかった。

表2 せん孔細菌病に対するデランフロアブルの防除効果 (令和元年 青森りんご研県南果樹)

薬剤名	希釈倍数	葉		果実			薬害
		発病葉率 (%)	防除価	発病果率 (%)	発病度	防除価	
デランフロアブル	600倍	12.5	42	4.0	1.3	87	なし
アグレプト水和剤	1,000倍	14.1	35	1.0	0.7	93	なし
無散布	—	21.7	—	16.0	10.3	—	—

- (注) 1 供試樹：「川中島白桃」、1区1樹
 2 薬剤散布：5月30日（落花20日後頃）、6月10日（落花30日後頃）、6月20日（落花40日後頃）、7月8日（7月上旬）の計4回散布した。
 3 調査方法：7月24日（最終散布16日後）に1樹20新梢の全葉について発病の有無を調査し、落葉も含めて発病葉率を算出した。また、1樹100果について発病程度を指数別に調査し、発病果率と発病度を算出した。葉では発病葉率、果実では発病度から防除価を算出した。
 〈発病指数〉0：病斑なし、1：病斑が1個、2：病斑が2～4個
 3：病斑が5個以上あるいは1つの病斑が5mm以上

$$\text{発病度} = \left\{ \frac{\sum (\text{指数} \times \text{発病程度別果数})}{(3 \times \text{調査果数})} \right\} \times 100$$

(参考価格) 600倍10a当たり4000(立木全面)散布で、3,622円(税込み)。